

低コスト施業の普及・定着

～造林未済地と間伐未実施林分の解消に向けて～

渡島森林管理署

【現状・課題・目的】

道南地域の民有林においては、造林作業等の低コスト化が課題となっており、今後、造林作業の担い手不足も懸念されている。

また、素材生産においては、地形が急峻なことから高性能林業機械の導入や活用、間伐材の搬出や林地未利用材の利用が進んでいない。

【これまでの取り組みや成果】

これらの課題解消には施業の集約化や効率的な間伐の推進が必要と考え、モデル的に八雲町や長万部町等に働きかけ、森林整備推進協定を締結も視野に協議を進めるとともに工程管理プログラムの活用や一貫作業システムの導入等による施業の集約化・効率化に向けた検討会等も開催した。

また、昨年の台風被害箇所の状況把握に活躍したドローンについて渡島総合振興局東部森林室、八雲町、長万部町、今金町などが新たに導入しており、森林資源把握への活用等について当署に指導要請があったところである。



平成29年度の取り組み結果

① 市町村との連携強化

長万部町と路網の整備、中間土場の共同利用等に関する視察や打合せを実施し、森林整備推進協定の必要性・メリットを例示するなど丁寧に説明してきたが協定締結までは至っておらず引き続き理解を求める。

また、八雲町より国有林林道を活用した民有林林道計画の情報をいただき3月15日現地視察を実施したが現地在が岩石地で急峻なことから後日改めて別ルート等を検討することとした。

今後とも森林整備推進協定締結に向け働きかけを行い施業の集約化や効率的な間伐の推進に貢献する。



② 低コスト施業の普及・定着

コンテナ苗についての知識や技術の向上を図り施業の普及定着を目指して、檜山署、振興局と連携して9月21日に国有林の植栽現地において生長状況の検証と種苗生産者と造林事業担当者間の意見交換会を実施。

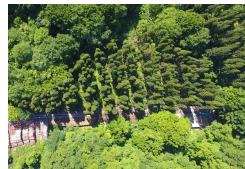
事前研修では、コンテナ苗の需給動向やメリット等を紹介した。



③ 効率的な林況把握

檜山署、振興局と連携して11月7日、国有林及び民有林内の列状間伐実施箇所において研修会を実施。

ドローンを活用して列状間伐の効果の見える化を行い、民有林における低コスト施業の普及定着に貢献。



今年度の成果

○森林整備推進協定について、説明等を進める中で民有林林道の計画や民有林施業の情報をいただき3月には八雲町熊石地区の現地視察を実施したところであり、今後とも長万部町と併せ署をあげて森林整備推進協定締結に向けた候補地の掘り起こしに努める。

○コンテナ苗生産者が新たに育苗施設等を導入し現状の約3倍の増産を計画。

国有林として着実な植栽実績を積み上げていく。

○北海道指導林家、森林組合を含む延べ64名が参加。

今後は各森林組合単位など、一般林家に対するきめ細やかな説明が必要なことがわかった。

【今後の取り組みで目指すところ】

コンテナ苗を活用した一貫作業システム、低密度植栽など低コスト施業の取り組みへの理解を深め造林未済地の解消を図る。

また、民有林における間伐適否等の効率的な林況把握技術の向上と低コストで安全な列状間伐(搬出間伐)の実績の向上を目指す。

【今後の目標】

低コスト施業が定着し、切り捨て間伐から列状間伐など搬出間伐への転換が図られ、間伐未実施林分を解消するとともに木質バイオマス利用など地域材の需要拡大を目指す。